

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成 ◎めざす学校像 『笑顔あふれる学校』 ○めざす子ども像「自分の思いを豊かに表現できる子ども」 ○めざす教師像「教材研究に励み、情熱をもって指導する教師」 ○めざす家庭像「はずむ会話で笑顔の絶えない家庭」 ○めざす地域像「子どもを中心とした地域づくり」	①思いやりのある心を育て、笑顔あふれる学校づくりをめざす ②学力向上の取組をいっそう推進する ③学校が保護者・地域等との連携に努め、一体となって子どもを育てる

達成
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 思いやりのある心を育て、笑顔あふれる学校づくりをめざす

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳授業の充実 自尊感情の醸成 心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間を中心に、心の教育を推進する。 アンケート項目「学校生活が楽しい・友達や地域の人に優しくできる」において、達成率を児童・保護者ともに90%以上とする。 人権集会で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」の実施にあたり、道徳教育全体計画に沿って、児童の実態に即し系統立てた指導を確実に実践する。 命・いじめに関わる授業「ふれあい道徳」を実施し、命の大切さについて考える。 「ほかほかカード」の実践に全校で取り組み、児童の自尊感情を高める。 人権集会を通し、各学級で集会に向けての取り組みや集会後の振り返りを確実に実施し、人権意識を高め日常生活での実践につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招聘し『特別の教科道徳』についての職員研修に取り組んだことで、道徳の時間の指導と評価について研修を深めることができた。 全校で「ほかほかカード」に取り組んだことで、児童の人権意識を高め、生活の中で使う言葉の大切さについて考えさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業において、『考え、議論する道徳』の視点を取り入れた授業に取り組み、指導の充実を図る。 道徳授業の年間カリキュラムはAB年方式として見直す。 児童の自尊感情を高め、児童の相互理解を深めるための手立てとして、人権教室の充実を図る。 小規模校のよさを生かし、児童一人ひとりの個性やよさが伝わる校内掲示を工夫する。
教育活動	○特別支援教育の充実	児童理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に職員間の共通理解を図り、学校全体できめ細やかな対応ができる支援体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成し、配慮や支援を必要とする児童の情報共有を図り支援体制の充実を図る。 「子ども支援全体会議」において、情報を共有し、一人一人の児童に応じた支援方法を話し合う。 児童一人一人のきめ細かな実態把握と適切な支援を、全職員共通理解の下実施する。 支援を必要とする児童について、必要に応じてケース会議を開くと共に、スクールカウンセラー、医療機関、関係機関、保護者と連携しながらより良い対応を検討していく。 スクールカウンセラー等関係機関の講師を招き、合理的配慮の提供等についての研修会を開催する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成し、職員間で共通理解を図ったことで、児童理解を深めると共に具体的な支援の手立てをもつことができた。 支援を必要とする児童について、ケース会議を開き児童理解を深め、支援について共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、特別支援学級の設置される。特別支援学級(知・情)の教育課程や生活単元学習、自立活動年間計画の検討、交流学級との関係など、教師間の連携を密にして全教職員共通理解・共通実践をもとに、計画的組織的に運営・指導する。 関係機関や保護者と連絡を密に取り、全校児童や保護者への啓発に努める。 特別支援教育コーディネーターを中心に全校児童の実態把握に努め、支援を要する児童の個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。 困り感のある児童や気になる児童については、毎月、生徒指導・教育相談・特別支援協議会で情報交換し、全職員の共通理解の中で適切な支援を行う。 個別の支援が必要な児童について、適時、校内支援委員会で共通理解を図り、校内での支援方法について協議し、実践する。
教育活動	○学校生活	学級経営の充実 異学年交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> 『笑顔あふれる学校』づくり(めざす学校像)に取り組む。 学級づくり・異学年交流の充実を図り、望ましい集団作りに取り組む。 授業、遊び、学校行事など学校生活全般において「楽しい」と感じている子の割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 支持的風土のある学級経営を行い、児童が「笑顔」で学校生活を送り、安心して自身の力を存分に発揮できるよう指導する。 児童のよさを認め、ほめ励まし、伸ばすことを基本とした学校・学級経営を進める。 授業や行事の中で、主体的に取り組む協働的な活動を通して、互いを尊重し認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進める。 指導に当たって、「ほめる」「認め合わせる」「振り返らせる」を基本姿勢とし、「共同学習の場面」「認め合う場面」「積極的に意見や考えを言う場面」を学習活動に意図的に取り入れる。 縦割り掃除や運動会、遠足などの活動において異学年交流の充実を図り、児童相互の関係づくりや望ましい集団作りに取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や返事については、十分達成・概ね達成の児童は85%であり、挨拶の習慣は概ね定着している。しかし、進んで挨拶をしたり気持ちのよい挨拶をしたりする態度が十分に定着しているとは言えない。 地域の方が、児童に積極的に関わっていた。地域の誰もが児童に気持ちよく挨拶をしてくださり、それが児童の挨拶の習慣の定着に生かされている。 『学校が楽しい』の問いでは、十分達成・概ね達成の児童が、目標の90%に到達できた。 縦割り遊びや児童会活動・学校行事など様々な活動において、縦割り班を生かした取り組みを行ってきたことで、異学年間の関係が深まり学校全体としての集団作りを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が、地域の方にも進んで気持ちのよい挨拶をするなど、よりよい挨拶の習慣を目指して、今後も指導を継続していく。 小規模校のよさを生かし、支持的風土を大切に学級経営に取り組むと共に縦割り班活動の充実を図ることで、児童の横と縦の関係を育み、温かな集団づくりに取り組む。 児童を主役にした縦割り班活動や集会活動、学校行事に取り組むことで、児童の主体性を育み、児童にとって楽しい学校の実現を図る。
教育活動	●いじめ問題への対応	早期発見・早期対応体制の充実 教育相談体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 児童のささやかないじめの兆候も見逃さないため、毎月「心のカード」の記入を実施して、児童の状況把握といじめの早期発見・早期対応に努める。 教育相談体制を充実させ、いじめの未然防止やいじめ事案について、保護者やスクールカウンセラーとの連携を密にし、組織として対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、月初めの「いじめ命を考える日」の取組として、「心のカード」を書く他、「いじめアンケート」を各学期に1回実施し、日常的・計画的な情報収集や状況把握を実施し、全職員で情報共有や意識の共通化を図り、いじめの早期発見・早期対応につなげる。 学期初めに、「いじめをなくそう」の取組を行う他、全校集会等で確認し、児童の意識を高める。 各学期に「教育相談ウィーク」を設定し、重点的にきめ細かな児童の観察と支援を実施する。 児童が相談しやすい環境・体制整備を進める。 いじめを見逃さない教職員の指導力向上等の研修を充実させ、「大詫間小学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや心のカードに取組ことにより、児童の友だち関係や困っていることを把握し、その都度解決策を考え支援を行うことができた。 毎学期に1回教育相談週間を設けて、全児童を対象に教育相談を実施し、児童の実態把握をすることができた。 今年度は3件のいじめ事案が発生した。いじめも早期に発見し対応することができた。今後も支援会議や教育相談週間を継続し、早期発見・早期対応できる体制を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる職員研修を実施し、職員のいじめへの対応力を高めると共に、校内体制の整備を図る。 来年度も、学期に1度の教育相談週間を設定し、担任と児童が1対1での面談を行う機会をつくり、児童理解を深めながら実態把握に努める。 日頃から、児童の生活の様子や頑張りを積極的に保護者に伝え、学校と家庭の信頼関係を育むことで、いじめの未然防止に努める。 スクールカウンセラーと連携し、個別面談や心の授業を行うことで、相談しやすい環境をつくり、いじめの早期発見・早期対応へとつなげる。

② 学力向上の取組をいっそう推進する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善・充実 基本的な学習習慣の確立 基礎的・基本的な学力の定着	・佐賀県学習状況調査において、国語や算数の全領域で県平均を超える。 ・学校及び家庭における基本的な学習習慣の徹底を図る。(基本的な学習習慣を身に付けた児童を80%以上とする。) ・学期ごとの「家庭学習がんばろう週間」において、家庭での学習習慣の定着や、学習時間の確保、宿題の提出100%を目指す。	・校内研究で、国語科を中心に他教科・領域と関連付け、「地域」や「友達」との関わりを通して、豊かな表現力を育てる指導に取組み、「聞く」「書く」「話す」「まとめる」等の基礎的なスキルを身につけさせ、日常での体験活動を生かした表現力の育成を目指す。 ・家庭学習について、「家庭学習のてびき」(保護者用・児童用)を活用し、各学年の実態に応じて、読み・書き・計算の家庭学習を課すようにし、宿題の量と質の向上をめざす。また、学年や発達段階に応じて、児童に計画的な自主学習の取り組みを促し、宿題以外の学習時間を増やすよう指導する。 ・学期ごとに「家庭学習がんばろう週間」を設定し、家庭学習の習慣形成と同時に家庭での生活習慣の見直しについて保護者へ意識化を図る。	B	・県学力・学習状況調査では、4年生のすべての教科、5年生の算数と理科で国語・算数の全領域で県平均を上回った。各学年、「知識・理解」の領域での落ち込みが見られた。 ・授業では、個別指導を丁寧に行い、授業の中で一人一人の出番を大切に言語活動やノート指導等の個別に支援を行った。授業以外の「すらすらタイム」や「スピーチタイム」等の取り組みで、「表現する力」の高まりが感じられる。 ・学期ごとの「家庭学習がんばろう週間」の取り組みで、学習時間を意識して集中して取り組むことができる児童が増えてきた。保護者の家庭学習への意識も高まり、協力を得ることができた。 ・学力向上への取り組みに関するアンケートも、A61%、B35%、C4%、D0%と、評価は高かった。	・児童の実態・課題を把握し、校内研究で引き続き児童の「伝え合う力」を伸ばすことを目標にし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」ができるよう指導を工夫していく。 ・どの教科も基本的な知識の定着を図る。毎時間の授業の振り返りの徹底や、自分の考えをノートに書く指導などを系統的に行う。 ・「家庭学習がんばろう週間」で、宿題以外の取り組みに個人差が見られたので、児童の実態に応じて自主学習を促していく。また、全体的に、土日の学習時間が少ないので「家庭学習のてびき」を活用して、計画的な取り組みを促し、宿題以外の学習時間を増やす。
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣・運動習慣の確立 健康教育の推進	・運動に親しむ習慣づくりに取り組み、体力の向上を目指す。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」を励行し、生活リズムを確立させる。 ・朝食摂取率100%を目指す。 ・健康に関する授業を実践する。 ・養護教諭や歯科校医等の専門性を生かした指導を行う。	・全校で駅伝大会に取り組み、大会を目標に、週に2回の持久走タイムを設け、体力作りに取り組み。マラソカードを工夫したり、取り組みの時間帯を工夫したりする。 ・「さがんキッズ体力アップ記録カード」を参考にしながら、各学年に応じたためあてをもたせ、体育の授業等において、体力アップに取り組ませる。 ・保健学習の授業を行う際に、担任と養護教諭、校医等によるTTの授業実践を工夫し行う。 ・「基本的な生活習慣は身につけているか」について、長期休業前の指導と関わらせながら、各学年で「朝起きる時刻」「寝る時刻」「テレビを見る時間」等についての指導を継続していく。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」等のアンケート調査を活用し、児童の生活習慣の形成に関して、保護者の意識啓発と家庭の教育力向上につなげる。	A	・保護者アンケートの結果では、健康・体力づくりにおける学校の取り組みについて十分達成・概ね達成併せて100%と高い評価であった。 ・冬季は、週2回のランランタイムやなわとびを取り組んで取り組み、児童の体力向上を図った。その取り組みを生かし、全校でなわとび大会・駅伝大会に取り組んだ。大会ではたくさんの保護者や地域の方に応援をいただき、児童の意欲を高めることができた。 ・食後に歯磨きをする習慣の定着については、児童の自己評価が十分達成・概ね達成が87.8%であった。多くの児童が習慣が定着している一方で、12.2%定着していない児童もいた。 ・食育については、毎日の給食指導に加え、給食週間で残菜や食器の片付け方の見直しを行ったことで、感謝の気持ちや食事の大切さについて理解が深まった。 ・令和元年度食育推進優良校に対する保健体育課長賞を受賞した。	・来年度も、冬季のランランタイムやなわとび段取りカードに継続して取り組む。児童の意欲を高めながら取り組めるようにする。 ・体育科授業の指導過程を工夫し、児童が意欲的に学習に取り組む態度を育てると共に、授業中での運動量を十分に確保し、体力の向上に努める。 ・昼休みの外遊びを推奨する。集団での外遊びを教え、友達との楽しく遊びを通して体力の向上を図る。 ・食後に歯みがきの習慣は全体的に定着してきたため、今後も歯科校医と連携した指導を継続し、むし歯予防に努める。また、定着していない児童への個別指導も検討していく。 ・食育については、今後も給食指導と給食週間の取り組みを継続し、食に対する関心や理解を高めていく。また栄養教諭と連携し、給食指導の充実を図る。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を90%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業や行事、学校生活の中に、感動体験や自分発見の場を設定する等、教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、系統的にキャリア教育に取り組む。 ・全校合同の行事で異学年と協力し、支え合う経験や校外での積極的なコミュニケーションを通して自分の果たすべき役割に気づかせる。そして、目標に向けて自分の能力を発揮し、周囲と協力し合い達成しやり遂げた成果を認め、各自の自信や「自立心」「責任感」の伸張につなげさせる。	B	・児童及び保護者アンケートの結果では90%以上がよくできる・大体できていると評価していた。 ・学校行事後の振り返りや感想交流の場が定着し、児童自身の成長を感じる場となった。 ・異学年での活動が多く、上級生と下級生が互いに協力し目標に向けて努力し、やり遂げた成果を共に実感できたことが喜びにつながった。	・全ての教科の学習や学校行事を通して学んだことを、常に振り返らせ、気づきや努力を成長として実感させる。 ・キャリア・パスポートを十分に活用するため、各学年のキャリア教育の年間計画を見直し、見直しをもって取り組む。 ・家庭とも連携し、励ましのコメント等も活用し、自己理解や自身の可能性への意識を高めさせる。

③ 学校が保護者・地域等との連携に努め、一体となって子どもを育てる

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針の情報発信	開かれた学校づくり	・家庭や地域に向けて、「学校だより」やホームページを活用し、学校の情報を継続して発信し、90%以上に取組を知ってもらうようにする。	・PTA総会、学級懇談会等で、家庭や地域に向けて学校経営方針を継続的に発信し周知を図る。 ・学校だよりやホームページ等で学校での具体的な取組の様子を、家庭・地域へ情報発信する。 ・学校行事や児童の学校生活の様子について、「学校だより」やホームページ等を活用し、地域・保護者の方々向け情報を迅速に継続的に発信する。	A	・具体的方策通り実施し、保護者アンケートでは、学校経営方針などの情報発信については、十分・おおむね達成は100%であった。 ・学校だよりや学級通信等、学校からのお便りを継続して発行してきたことで、学校の教育方針などを家庭や地域に周知することができた。	・今後も学校便りや学級通信等を定期的に発行し、学校の運営方針の周知に努める。 ・令和2年度、九州へき地教育の授業発表校として本校の取り組みを公開することになる。発表に向けて目指す児童像及び学校教育目標の保護者・地域への一層の周知を図る。
教育活動	○地域・家庭と共に歩む学校づくり	市民性を育む教育の推進 地域や保護者との連携	・地域の人材や団体組織、保護者等と連携した学校行事や体験活動に取り組み、地域の歴史や文化、人との関わりを学ばせ、地域の良さを感得させる。 ・地域の行事に積極的な参加を促し、児童が地域で意欲的に活動できる場をつくり、90%以上の児童に地域の一員であることを自覚させる。	・運動会や餅つきなど、地域や保護者と連携して学校行事を実施する。 ・学校行事の他、社会科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間や生活科等と関連させ、地域の人やもの、ことが学習の場、素材となるような単元・題材を計画し、地域の教育力を生かした学習を仕組む。【米作り(1~4年) 餅つき(全学年) しめ縄作り(5・6年) 手漕ぎのり体験(3・4年) バルーン体験(1・2年)】 ・体験活動を通して地域の人と触れ合う機会を設定し、自己肯定感を高め、郷土を愛する心を育む。 ・全校ボランティア活動(ごみ拾い)を地域と連携して実施する。(6月)	A	・地域連携についての学校の取り組みについての保護者の評価は、十分達成・概ね達成を併せると100%と高い評価であった。 ・生活科や総合的な学習、学校行事とそれぞれの学年で地域の「ひと・もの・こと」を生かした活動を実施することができた。特に地域の方との交流(運動会、ふれあいウォーキング、敬老会、もちつき、駅伝大会等)や地域の産業についての学習(海苔手漕ぎ体験、稲作、トマト農家の見学等)は、児童の郷土愛の育成や地域の良さを実感させる上で有効であった。 ・学校行事や学習への地域人材の活用については、地域の支援を受けて成果をあげており、今後も教育活動の充実のために継続して取り組んでいきたい。	・総合的な学習の時間は、3、4年生は原則単学年で実施し、5、6年生は原則複式学級で実施する。単元によっては、3、4年生を複式学級で実施したり、5、6年生を単学年で実施したりする。 ・地域のゲストティーチャーを積極的に活用し、体験活動を通して地域とのつながりを深める。 ・総合的な学習の時間の年間指導計画にあたっては、これまでのAB年方式を見直し、各学年毎の年間カリキュラムを作成して指導の充実を図ると共に、地域の人材を外部講師として招き活用することで、地域との連携推進を一層進めていく。 ・来年度も、運動会は地域との共催行事として位置づけ、地域と連携して活動の充実を図る。 ・地域の方が学校の教育活動や児童への支援に、気兼ねなく参加していただけるような仕組みづくりや受け入れ態勢を整える。 ・まちづくり協議会との連携を図り、学校と地域双方にとって有益となる連携の在り方を模索していく。

学校運営	○幼小中との連携	交流活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携による教育活動を実施する。 ・小中連携による教育活動を実施する。 ・島内の小学校との交流活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携で園児の学校体験を実施する。【しまのご祭り・おもちゃ祭り(隔年交互実施)学習体験 大ききり運動会】 ・小中連携で小中連絡協議会を年3回開催。【授業参観 中学校からの出前授業 卒業生ボランティア活動】 ・島内の福岡県大川市立大野島小学校との交流を行う。【春の合同遠足・交流会(隔年実施)】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に連携会議や交流活動を実施しているため、情報の共有ができ、園児や1年生へ適切な支援が取りやすかった。しかし一方で、今年の一部の情報共有が遅れた。 ・幼小連携については、『おもちゃまつり』や『学校探検』などの交流活動を通して、園児と児童の交流を深めることができた。 ・保育参観への職員の参加は難しかった。多くの職員が参観できる機会を設ける必要がある。 ・小中連携では、中学校の都合で「母校ボランティア」が行われなかった。小6の体験入学は、中1ギャップの軽減に役立っている。 ・町内の4校で共通の取り組み「家庭学習の仕方」「川副中学校新入生春休みの宿題」について連携し、中1ギャップの解消及び学力向上に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、年3回の幼小交流を充実させていくことで、小1プロブレムの解消を図ると共に、低学年児童の心の成長を図っていく。 ・来年度も、川副校区の小学校や福岡県の大野島小学校との連携を計画し実践する。 ・幼小連携については、来年度はより連携を密にし、早めの情報共有を心がける。 ・中学校との連携の成果として「自問掃除」が定着してきている。来年度も「自問掃除」につながる「無言掃除」が定着するように取り組みを継続していく。 ・町内の4校での共通の取り組み「家庭学習の仕方」をもちに、家庭学習頑張り週間取り組みについて啓発していく。
学校運営	○安全な学校づくり	危機管理体制の整備 安全教育の徹底・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の危機回避力を高める。 ・防犯ブザーの所持率100%を目指す。 ・食物アレルギー対応のための校内体制を確立し、事故防止の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時に自分で自分の命を守るための安全・避難等の訓練を計画的に実施する。 ・毎週水曜日の集団下校時に、防犯ブザー・紅白帽子・名前札の携帯をチェックし、登下校時身につけることを意識させる。 ・大詫間地区子ども安全推進協議会、保護者による「安全パトロール隊」、地域による「子ども見守り隊」、老人クラブによる「お帰りの隊」父親委員による「青バト巡回」など、子どもたちを見守る活動を継続・実施する。 ・食物アレルギー対応委員会を定期的に開催し、事故防止に向けた取り組みについて職員間で共通理解を図ると共に、緊急対応時を想定した訓練に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども見守り隊」を含め、地域と連携し児童の安全を守る様々な活動を推進してきたことで、不審者による事案や交通事故は皆無であった。 ・地域の「子ども見守り隊」への協力人員が高齢化などで減少しており、今後の組織体制の見直しが課題である。 ・防犯ブザーの所持率は85%で、100%の目標は達成できなかった。 ・避難訓練において、自らの判断で安全に避難するよう、これまでに訓練していなかった津波や大水の時の集団下校の訓練を実施した。 ・食物アレルギー対応のための職員研修に取り組み、対応マニュアルの見直しやアナフィラキシーを想定した訓練に取り組む等、校内体制を整えてきたことで、食物アレルギーを未然に防ぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも大詫間地区子ども安全推進協議会、保護者による「安全パトロール隊」、地域による「子ども見守り隊」、老人クラブによる「お帰りの隊」父親委員による「青バト巡回」など、子どもたちを見守る活動を推進し、充実してことが大切である。 ・地域の「子ども見守り隊」への協力人員が高齢化などで減少しており、今後の組織体制の見直しが課題である。 ・防犯ブザーの所持率が90%になるように、年度初めに点検と整備に組み、保護者へも協力を呼びかける。 ・児童の防災意識を高めるために、例年通りの避難訓練にとどまらず、防災教育の視点に立った指導を検討していく。 ・食物アレルギー対応については、校内体制の共通理解や保護者との連携を図るなどの取り組みを継続し、緊急時に備える。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	衛生管理の改善・充実 校務等の効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合う時間を確保し、多忙感の解消を図る。 ・職員間の連携を推進し、職務の効率化と児童の指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のタイムマネジメントの意識を向上を図り、平常時の退勤時刻を設定するとともに、定時退勤日の徹底に取り組む。 ・職員間のコミュニケーションを図り、指導についての情報交換や共通理解の場とし具体的な指導に生かす。また、管理職・級外による担任への協力・支援体制を整える。 ・職員会議等、会議時間の設定や資料の事前配布を確実にし、効率的な議事運営を進める。また、職員会議のペーパーレス化に向け、会議資料のデジタル化等のシステム整備を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤PC横の情報ボードにより、日々職員へ早目の退勤を呼び掛けるなどの取組の成果により、本年度はほぼ毎日19:00施錠が可能となった。 ・月当たり時間外勤務の平均値も約30時間と大幅に削減した。 ・会議のレジメ・資料提示方法を刷新。完全なペーパーレス会議が徹底した。会議の提案終了時刻の明示により、協議の時間が削減した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人当たりの校務分掌負担が大きい現状を踏まえた、校内組織のスリム化を図る。 ・来年度以降も職員の超過勤務時間が月40時間を越えないよう、定時退勤日の徹底や施錠時刻の予告等、対策を継続する。 ・職員会議等、諸会議の回数削減のため、議案内容について年間の見通しをたて、無駄のない計画を立てる。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の経営方針は地域や保護者に浸透し、苦情等全くなく学校運営は良好であった。今後も、学校からの情報発信を積極的に行い、学校教育への理解と協力を得られるようにしていきたい。 ・自治会やまちづくり協議会など地域組織との連携を強化してきたことで、地域連携による開かれた学校教育活動を推進することができた。今後も運動会の地域合同開催など、学校と地域の双方向の関係性を強化・推進させたい。 ・「縦割り」を活かした児童会活動・学校行事などが定着し、異学年間との関係が深まり学校全体としての集団作りを進めることができた。また、他の小学校との交流活動・交流学習等にも取り組み、教育活動の活性化につながった。 ・本年度は、毎月の「子ども支援会議」毎学期の「いじめ防止対策全体会」「教育相談週間」など体制の整備を図ったことが、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につながった。 ・職員の時間外勤務が大幅に削減でき、業務改善の取組について一定の成果が得られた。ペーパーレスによる会議運営も定着してきた。今後も、職員の意識の変化に繋がるよう定時退勤日の設定や退勤の呼びかけなど丁寧に行っていく。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した家庭学習の定着や、教員の指導の工夫・授業改善による基礎学力の定着を図り、確かな学力向上の取り組みを推進する。 ・学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、意欲的に表現する力の育成や主体的に学びに向かう態度の涵養などに全校で共通実践し、小規模校の弱みを強さにかえるよう取り組みたい。
--

●は共通評価項目、○は独自評価項目